

令和8年度 八王子立元木小学校経営計画

校長 河野 佳子

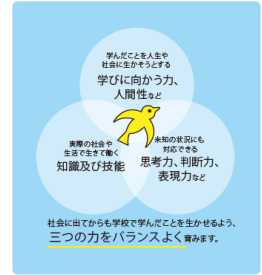
1 目指す学校

《学校教育目標》

変化の激しい時代において、自身の思いや願い・意思を実現し、自身の人生を主体的に舵取りしていく力が求められている。

「学びに向かう力・人間性等」は、児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの力「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力」をどのような方向で働かせていくかを定める重要な要素である。

そこで、自分らしく主体的に未来に向かって進む児童，他者と協働しながら社会を生きることができる児童の育成を目指し、「学びに向かう力と人と関わる力の向上」を重点目標として掲げ、次のとおりに教育目標を定める。



- | | |
|----------------|-----------|
| ●考える子（本年度重点目標） | ○思いやりのある子 |
| ○やりぬく子 | ○元気な子 |

●「考える子」育成のために

特別支援教育の手法を生かし、学習の基礎基本が「分かった。できた。身に付いた。」と実感できる授業を行う。また、ICTのメリットを活かした活用とともに、ノートやワークシートのメリットを活かし、併用を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

そのために、環境づくりを通して、言語能力を土台として、児童の情報活用能力、論理的思考力を育て、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行うとともに、個に応じた課題を家庭学習やパワーアップタイム等を活かし、社会的生活を営む上で身に付けるべき基礎的・基本的学習内容の確実な定着を図り、学力・自己肯定感の向上を目指す。

○「思いやりのある子」育成のために

道徳や特活の時間を軸に全教育活動を通して、人と関わることの楽しさを味わわせる。たくさんの関わりをもち、友達の良さと自らの良さを認め大切にし、すべての友達、保護者、地域の方々に思いやりをもって接することができる心情・態度を育て、自己有用感、他者理解・他者尊重の向上を図る。

さらに、縦割り班等の異学年交流も効果的に活用することで、人や自然と仲良く共生できる子どもを育てるとともに、いじめ・不登校への適切な対応をしていく。

○「やりぬく子」育成のために

ねばり強く取り組み、ゴール（目標）に向かって努力し、最後までやり抜き、振り返ることでスパイラルに自分を高める「学びに向かう力」を身に付けさせる。「やってみたい」を大切に、自分のゴール（目標）を自分自身で設定できる力を育成する。「できた」「前よりうまくいった」と達成感を味わわせ、次への行動の意欲とする。

○「元気な子」

よりよい生活習慣を身に付けるとともに、休み時間には元気によく遊び、体力や運動能力向上に努めさせる。食育を通して、毎日明るく元気に学校に来る気力、体力を充実させる。

※今年度の重点目標

本年度は、『考える子』を重点目標とし、学習・生活スタンダード、単元配当表等カリキュラムマネジメントにそって、学級経営はもとより学年経営・ブロック運営に重きを置き、「チーム元木」として、一人の児童をできる限り最大限の大人が情報共有して、協力して育てていく。

【スローガン】

学校・保護者・地域の方々の連携による

「チーム元木」で「笑顔があふれる学校」に。～共育・協育，今日行く～

- ・共育・協育…一人の児童をできる限り最大限の大人が情報共有して、協力して育てる。
- ・今日行く…児童への初期対応・指導・支援は、相手の気持ちに寄り添って、今すぐに行く。



元木小キヤクター
「今日行く」です。